



《日本医師会生涯教育シリーズ》 Electrocardiography A to Z 心電図のリズムと波を見極める

日本医師会 編・発行 磯部 光章, 奥村 謙 監修
清水 渉, 村川 裕二, 弓倉 整 編 合屋 雅彦, 山根 禎一 編集協力
B5 頁 304 2015 年
本体 5,500 円+税
[ISBN978-4-260-02150-0] 医学書院刊

評者 杉本 恒明
東大名誉教授

本書は《日本医師会生涯教育シリーズ》の一つである。このシリーズでは、タイトルが“ABC”となっているものはよく見るが、“A to Z”というのは初めてである。書評の依頼をいただいたこともあって、「監修・編集のことは」を改めて拝見し、医学生、研修医、コメディカルスタッフ、あるいは専門医までも含めて対象とした、とあったのを見て、そのスケールの大きいことを知った。殊に、コメディカルスタッフを対象に含めたことに感心したのである。今日、看護師が専門領域を持つようになって、若い看護師たちの心電図に対する関心は極めて高く、よく知ってもいる。

評者は平素、医療機器の一般家庭への普及を願ってきた。心電計もまた、そのような大衆化された医療機器と言える時代になっているのではないかと考えていた。狭心症症状にしても、不整脈にしても、症状があるときの心電図が極めて大事である。このためには携帯型心電計がもっと利用されてよい。家庭血圧計の普及は日常の管理の面ばかりでなく、血圧というものの生理的、病態学的意義について医学的な新知見を提供しつつある。心電図記録においても、携帯型心電計はこのような付加的価値をもち得るものであり、医学・医療に貢献するところは極めて大きいはずなのだ、という思いがある。

心電図波形は視覚的、直観的に読み取る訓練が極め

て有用で、役立つ領域である。本書の冒頭には口絵がある。本書を通読する前と後とでこれを見比べると、得られた知識が確認できよう。

本書は「心電図の基本的知識」「心電図判読の手順と異常所見」「波形の異常」「調律の異常」「心電図に関連する臨床的知識」の5章構成である。各章の内容は基本的には臨床を離れることなく、心電図、診断、病態が中心であり、メカニズムの記述には執筆担当者の思いが込められている。最終章の「心電図に関連する臨床的知識」には、Holter 心電図、携帯型心電計から自動解析心電計に至る9項目がある。自動解析は利用されるものであり、頼られるものではない。そのゆえに手引き書としての本書は極めて大事である。

ページの間に「ひとくち MEMO」がある。これが必ずしも「ひとくち」ではない。多くは1ページを超えていて、結構、面白い。評者はこれを担当された執筆者のお人柄を想像しながら楽しんで読んだ。

まずは医学生、研修医、コメディカルスタッフにお勧めしたい。とにかく、通読することである。思いもよらず、楽に通読できて驚くであろう。そして読み返す。それは骨の折れることではない。こうして得られる心電図所見が医療スタッフの日常会話の中で、また患者との会話の中で、何気ない話題となっていく時代となることを願いたい。